

活動報告及び令和2年度活動計画  
～その他調査～

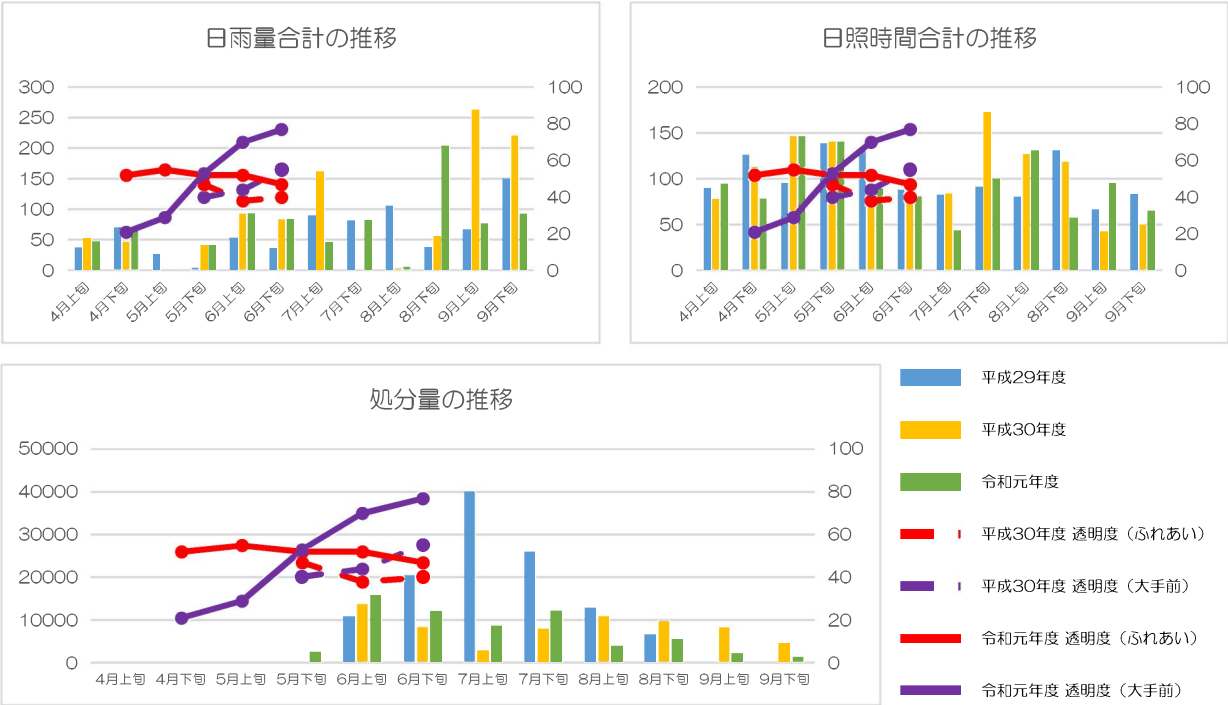
令和元年度活動内容

①ホシザキグリーン財団による環境修復事業プロジェクト【継続】

城山内堀川、北田川、中川、比津川で4月19日～10月28日の間、生物相と自然環境の実態を明らかにするため、カメをはじめとした生態調査を実施  
詳細は、令和2年3月頃発刊の、「令和元年度ホシザキグリーン財団 環境修復プロジェクト 報告書」に記載。概要については生き物調査資料（資料-1）を参照。

②水草・藻の繁茂に関する調査（松江堀川における透明度の状況把握調査）【継続】

透明度と水草・藻の発生量の関係性、透明度と日雨量・日照時間の関係性を調査するもの。



・透明度

透明度の前年度結果との比較

透明度は前年度と比較し、全体的に高い傾向にある。ふれあい広場箇所は概ね50前後で推移し、大手前広場箇所は夏にかけて透明度が高くなる。また、透明度の推移は兩年とも同様な傾向を示しており、夏にかけてふれあい広場は下がり、大手前広場は上がる傾向となっている。

透明度と日雨量・日照時間との関係性

H30とR01を比較したところ日雨量と日照時間は兩年ほぼ同じ値で推移している。しかし、透明度について傾向は似ているが、値が大きく違うため日雨量や日照時間と透明度との関係性は低いと考える。これらより、宍道湖からの導水状況や流れの向き・早さなどによるところが大きいと考える。

## 令和元年度活動内容

### ・処分量

刈り取り量は近年と比較し少なかった。(H29：129t → H30：84t → R01：69t)

刈り取りペースはR01とH30が同様な動きを示している。6月上旬が一番刈取・処分を行っており、その後、刈り取り量は減少している。これは藻刈りに着手する時期がこの頃であり、4月頃から伸びた水草や藻を一気に刈るため、量が多くなると考える。

刈り取り量の推移は日照時間の推移と同様な傾向があり、日照時間が長いほど、光合成が可能な時間帯も長く成長が早くなるため、処分量に同様な傾向が見られたと考える。

## 今年度の状況

### ・環境修復事業プロジェクトによる一定の成果

生き物調査でも記載したとおり、松江堀川に生息する生き物に関する実態が概ね把握できたこととアカミミガメの捕獲数が過年度と比較しかなり少なくなったことから、4年に渡る環境修復事業の成果が得られた。

### ・水草・藻に関する関心が高い

出雲河川事務所では宍道湖にて様々な取り組みをしており、同様な内容が松江堀川でもできる。また、県民ホットラインやマスコミなど各方面から水草・藻に関する問い合わせが多くあり、宍道湖と合わせてかなり関心の高いものとなっている。

## 令和2年度活動計画

### ①ホシザキグリーン財団による環境修復事業プロジェクト【完了】

一定の成果を得られたことから、財団による環境修復事業プロジェクトは完了し、自治体や民間団体による防除活動に協力していく。

### ②水草・藻の繁茂に関する調査【継続：内容変更(令和2年3月頃～11月頃)】

近年、外部からの関心も高い水草・藻に関して、松江堀川の実態を把握し、各方面からの問い合わせに対する基礎資料とするほか、啓発イベントでの実施箇所検討や今後の取り組みに対する参考資料として活用する。

#### 次年度取組み内容

- ・松江堀川の定点観測・・・撮影箇所を決めて生え始めから水草が見えなくなるまでの一定期間の写真撮影を行う。どういったときに大きく繁茂するか調査する。
- ・水草・藻の分布調査・・・どういった種類のもがいつどこで繁茂しているか調査する。定点観測と合わせて松江堀川全体の实態を把握したい。

※具体的な実施内容は今後関係機関で調整し決定する。